



SPARC® Enterprise M3000 サーバプロダクトノート

XCP 1080 版

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 820-6756-10
2008 年 10 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. および富士通株式会社 〒 211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中 4-1-1, Japan. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社が有する知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社と Sun Microsystems, Inc. およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および/または Sun Microsystems, Inc. へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、お客様からのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに由来しています。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Netra、Solaris、Sun Ray、Answerbook2、docs.sun.com、OpenBoot、および Sun Fire は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. または関連会社の商標または登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザー



Please
Recycle



Adobe PostScript

インターフェースの概念の研究開発における Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。Sun Microsystems, Inc. は Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装しているかまたは Sun の書面によるライセンス契約を満たす Sun Microsystems, Inc. のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項：本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限ります。このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のもと第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。

目次

プロダクトノート vii

XCP 1080 に関する一般的な情報 1

サポートされるファームウェアおよびソフトウェアのバージョン 1

Solaris に関する情報 2

Emulex PCI Express (PCIe) カードのパッチ 2

機能の問題と制限 3

一般的な機能の問題と制限 3

追加情報および手順 4

システムへのログイン 4

XSCF Web ブラウザの問題 4

WAN ブートサーバからのブート 5

システムメモリの識別 5

▼ システム内の縮退メモリの識別 5

ソフトウェアに関する情報 7

XCP に関する問題と回避方法 7

Solaris OS に関する問題と回避方法 10

サポートされているリリースすべての Solaris OS に関する問題 10

マニュアルの変更予定 13

プロダクトノート

本書では、SPARC® Enterprise M3000 サーバ、ソフトウェア、およびドキュメントに関する重要な最新情報について説明します。

ソフトウェアリソース

SPARC Enterprise M3000サーバには、Solaris™ Operating SystemおよびSun Java™ Enterprise Systemソフトウェアがプレインストールされています。

最新のSolarisパッチ

Solaris 10 10/08 OSを使用している場合は、必要なパッチはありません。

追加情報

追加情報については、使用しているSolaris OSのバージョンに対応するリリースノートと、次のURLのBig Adminウェブサイトを参照してください。

<http://www.bigadmin.com>

XCP 1080 に関する一般的な情報

この項は、次の内容で構成されています。

- 「サポートされるファームウェアおよびソフトウェアのバージョン」 (1ページ)
- 「Solarisに関する情報」 (2ページ)
- 「機能の問題と制限」 (3ページ)
- 「追加情報および手順」 (4ページ)

サポートされるファームウェアおよびソフトウェアのバージョン

表 1に、本リリースでサポートされているファームウェアおよびオペレーティングシステム (OS) のバージョンを示します。

XCP 1080は、SPARC Enterprise M3000サーバでサポートされるXCPの、最初のバージョンです。

表 1 M3000サーバでサポートされるファームウェアおよびオペレーティングシステムの最小バージョン

ファームウェアおよびオペレーティングシステム	バージョン
XSCF Control Package (XCP)	XCP 1080
Solarisオペレーティングシステム	Solaris 10 10/08

XSCF Webは、多くのウェブブラウザでサポートされます。このうち、XSCF Webの動作することが確認されているウェブブラウザは、表 2のとおりです。

表 2 確認されたウェブブラウザのバージョン

ウェブブラウザ	バージョン
Firefox	2.0および3.0
Microsoft® Internet Explorer	6.0および7.0

Solarisに関する情報

Solaris 10 10/08 OSを使用している場合は、必要なパッチはありません。

その他のSolaris OSの情報については、「[Solaris OSに関する問題と回避方法](#)」（10ページ）を参照してください。

Emulex PCI Express (PCIe) カードのパッチ

以下のEmulexカードは、パッチ120222-27以降で提供されるドライバが必要です。

- XSEFC402AF Sun StorageTek™ Enterprise Class 4-gigabit Dual-Port Fibre Channel PCIe HBA
- XSEFC401AF Sun StorageTek Enterprise Class 4-gigabit Single-Port Fibre Channel PCIeHBA

機能の問題と制限

ここでは、本リリース時点でわかっている問題および制限事項について説明します。

一般的な機能の問題と制限

- 以下の語はシステムに予約されているため、ユーザーアカウント名に使用することはできません。root、bin、daemon、adm、operator、nobody、sshd、rpc、rpcuser、ldap、apache、ntp、admin、default
- Service Processor (SP) をNetwork Time Protocol (NTP) サーバとして使用しないでください。独立したNTPサーバを使用することによって、SPとドメインで時刻の一貫性を保つ上で最適な信頼性を得られます。NTPの詳細については、Sun Blueprintのマニュアル『Using NTP to Control and Synchronize System Clocks (<http://www.sun.com/blueprints/0701/NTP.pdf>)』を参照してください。
- 外部電源制御装置の外部電源制御インターフェースを使用するとき、次の通知信号はサポートされていません。
 - OSパニックまたは本体装置ハードウェア異常信号 (*CPUN/RTNU)
 - 本体装置ハードウェア異常信号 (電源異常、温度異常、ファン異常) (*ALARM)
- XSCFを使用し、XCPをインポートまたはファームウェアをアップデートする場合、ウェブブラウザ上にWeb session ID errorが表示されることがあります。また、Autologout設定でタイムアウト時間を30分以上で指定すると、Internal Server Errorが表示されることがあります。現在のブラウザを閉じてから、新しいブラウザを開いて、XSCF Webに接続しなおしてください。
- XSCF Webを使用するときは、ポップアップブロック設定を無効にし、ブラウザに検索ツールなどのプラグインが組み込まれている場合はプラグインを削除してください。
- XSCF Webを使用する場合は、ブラウザのキャッシュ機能を無効にしてください。キャッシュを有効にしておくと、キャッシュされた古いデータがWebページに表示されてしまうことがあります。キャッシュを無効にする方法については、ご使用のブラウザによって、以下のように設定してください。
 - Internet Explorer 6および7
[ツール]->[インターネット オプション]->[詳細設定]タブにある「暗号化されたページをディスクに保存しない」をチェックします。
 - Firefox 2および3
アドレス欄に「about:config」と入力し、フィルタ欄に「cache」と入力します。リストにある「browser.cache.check.doc.frequency」の設定値を1に変更します。

- XSCF-LANはオートネゴシエーションに対応しています。XSCF-LANと接続するネットワーク機器は、オートネゴシエーションモードに設定してください。この設定を行わず、XSCF-LANと全二重固定で設定されているネットワーク機器を接続した場合、IEEE802.3の規約によって、XSCF-LANは半二重モードで通信します。これにより、ネットワークの通信速度が遅くなったり、通信異常が発生したりする場合があります。

追加情報および手順

ここでは、本リリース時点でわかっている追加の問題および制限事項について説明します。

システムへのログイン

標準的なデフォルトのログインのほかに、M3000サーバでは、adminと呼ばれる一時的なログインが可能な状態で出荷されます。これにより、シリアルポートを介したりモート初期ログインが可能になります。サーバの権限はuseradm限定であり、変更はできません。標準のUNIXユーザー名/パスワード認証またはSSH公開鍵認証を使用して一時adminとしてログインすることはできません。一時adminアカウントにパスワードはなく、またパスワードをこのアカウント用に追加することもできません。

デフォルトのユーザーとしてログインした後や、一時adminとしてのログインにより有効なパスワードと権限を与えられた最初のユーザーが登録された後には、一時adminアカウントは無効となります。

デフォルトのログインが使用される前に一時adminとしてログインできない場合には、showuser -lコマンドを実行することにより、他の誰かが上記の操作を実行していないか確認してください。

XSCF Webブラウザの問題

XSCF Webブラウザインターフェースでは、出力が切り捨てられる場合があります。次のような例があります。snapshot画面でSSHを選択したとき、Host、Directory、ID、Passwordの入力可能文字数がXSCFシェルでの入力可能文字数と一致しません。Panic Logページで、パニックメッセージが最後の50行分しか表示されません (CR 6756052)。ブラウザインターフェースで、監査以外のログサイズ制限が最後の2桁しか表示されません (CR 6742502)。

出力全体を表示するには、XSCF Shellコマンドラインインターフェース (CLI) を使用してください。

WANブートサーバからのブート

WANブートインストール方法を使用すると、HTTPを使用してワイドエリアネットワーク (WAN) 経由でソフトウェアのブートとインストールを行うことができます。WANブートサーバからM3000サーバをブートできるようにするには、適切な実行可能ファイルwanbootをインストールし、OpenBoot™バージョン4.24以降を使用して、必要なハードウェアがサポートされるようにする必要があります。

WANブートサーバの詳細については、使用しているSolaris 10 OSのバージョンに対応する『Solaris 10インストールガイド: (ネットワークインストール)』を参照してください。Solaris 10 OSのドキュメントは以下のWebサイトにあります。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/solaris.10>

実行可能ファイルwanbootをアップグレードしないと、M3000サーバは次のようなメッセージを表示して、パニックします。

```
krtld: load_exec: fail to expand cpu/$CPU
krtld: error during initial load/link phase
panic - boot: exitto64 returned from client program
```

システムメモリの識別

▼ システム内の縮退メモリの識別

- XSCFにログインし、次のコマンドを入力します。

```
XSCF> showstatus
```

以下は、マザーボード上のDIMM番号0Aのメモリが縮退された例を示しています。

```
XSCF> showstatus
      MBU_A Status:Normal;
*     MEM#0A Status:Degraded;
```

Sun Java Enterprise Server

Sun Java Enterprise Serverは、ソフトウェア投資を最大限に活用するソフトウェアサービスとライフサイクルサービスの包括的なセットです。概要およびドキュメントについては、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://www.sun.com/service/javaes/index.xml>

注 – Java Enterprise System 5 Update 1をシステムにインストールすることによって発生する問題（CR 6644798）に対処するために、WebConsole SMFサービスを有効にする必要がある場合があります。

▼ Web Console SMF サービスを有効にする

- 端末にrootとしてログインし、次のコマンドを入力します。

```
# svcadm enable svc:/system/webconsole:console
```

ソフトウェアの再読み込みが必要になった場合のダウンロードおよびインストール方法については、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://www.sun.com/software/preinstall>

ソフトウェアの最新コピーをダウンロードした場合は、使用しているサーバに必要なパッチがそのソフトウェアに含まれていないことがあります。ソフトウェアのインストール後、システムに必須パッチが存在するかどうかを確認する手順については、「[Solarisに関する情報](#)」（2ページ）を参照してください。

ソフトウェアに関する情報

この項は、次の内容で構成されています。

- 「XCPに関する問題と回避方法」 (7ページ)
- 「Solaris OSに関する問題と回避方法」 (10ページ)
- 「マニュアルの変更予定」 (13ページ)

XCPに関する問題と回避方法

表 3に、XCPに関する既知の問題とこれらの問題に対する回避方法を示します。

表 3 XCPに関する問題と回避方法 (1/3)

ID	説明	回避方法
6565422	showarchiving(8)コマンドのlatest communicationフィールドが定期的にアップデートされません。	archivingをいったん無効にしてから再度有効にすると、showarchiving(8)のアウトプットのlatest communicationがリフレッシュされます。
6624646	Sun Connection Update Manager GUIの登録に失敗した可能性があります。	GUIの登録に関する問題が発生した場合は、CLIを使用してください。
6723305	XSCF Webで、サマータイムが正しく表示されません。	有効な回避方法はありません。showlogs(8)コマンドを使用して、サマータイムの時刻を確認してください。
6726679	XSCFでwatchdog timeoutが発生すると、以降のSNMP Trapが通知されません。この症状は断続的に発生します。XSCFでwatchdog timeoutが発生しXSCFがリセットされると、以降のSNMP Trapが通知されません。	有効な回避方法はありません。

表 3 XCPに関する問題と回避方法 (2/3)

ID	説明	回避方法
6735711	setemailreport(8)コマンドは、255文字以上の受信者の電子メールアドレスを処理できません。	255文字以下の電子メールアドレスを使用してください。
6741770	SNMPトラップホストの設定を変更しても、setsnmp disableとsetsnmp enableを実行するまで反映されません。	SNMPの設定を変更した場合は、以下のコマンドを実行してください。 XSCF> setsnmp disable XSCF> setsnmp enable
6741895	FRUが（システムの電源切断を伴い）停止交換されたとき、（poweronの実行後）監視プロセスが、発生した交換操作を示すような監視ログのエントリを生成しない場合があります。	有効な回避方法はありません。
6742395	UPS装置が停電を検知しても、SNMP Trapが通知されません。	有効な回避方法はありません。
6742502	ブラウザインターフェースで、監査以外のログサイズ制限が最後の2桁しか表示されません。	Archive Logの制限を「0」に設定しないでください。showarchiving(8)コマンドを使用して、ログサイズ制限を確認してください。
6742951	setlogarchiving(8)コマンドが、Audit Logの制限として「-1」を受け入れ、その制限を「Unlimited」として設定します。	有効な回避方法はありません。
6743842	passwordコマンドの[user]オペランドは、ドキュメントでは省略可となっているにもかかわらず、オプション設定時に指定しない場合はエラーとなります。	有効な回避方法はありません。 オプションを設定した場合は、[user]オペランドを指定してpasswordコマンドを実行してください。
6744772	logarchivingの制限を超えたためにログがそれ以上アーカイブされなくなる場合に、そのことを示す警告メッセージが表示されません。	定期的にshowarchiving(8)コマンドを実行し、必要に応じて制限を調節してください。 または、ログアーカイブの使用領域が指定の制限に近づいた場合には、ログアーカイブホストで既存のログを手動で循環させてください。
6745336	M3000サーバのWANブートを実行した場合、ブートプロセスの初期段階でパニックが発生して失敗することがあります。以下のようなメッセージが出力されます。 ERROR: Last Trap: Fast Data Access MMU Miss %TL:1 %TT:68 %TPC:13aacc %TnPC:13aad0 %TSTATE:1605 %PSTATE:16 (IE:1 PRIV:1 PEF:1) DSFSR:4280804b (FV:1 OW:1 PR:1 E:1 TM:1 ASI:80 NC:1 BERR:1) DSFAR: fda6f000 DSFPAR:401020827000 D-TAG:6365206f66206000	再度、操作を行ってください。

表 3 XCPに関する問題と回避方法 (3/3)

ID	説明	回避方法
6755112	ドメイン動作中、XSCFユニットの故障が原因でXSCFがリセットされたあと、ハードウェアの状態を表示すると、CPUとメモリのステータスがDeconfigureと表示されます。	マザーボードユニットだけ交換してください。このときメモリに故障がなければ、メモリを交換する必要はありません。
6755113	ファームウェアアップデート中に以下のメッセージが出力され、XSCFがパニックすることがあります。 kernel BUG in jfffs2_do_read_inode at fs/jfffs2/readinode.c:XXX!	XSCFをリセットしたあとflashupdate(8)コマンドを使用して、再度、ファームウェアアップデートを行ってください。
6755986	Internet Explorer 6または7で、XSCF Webの[Setting]->[Audit]->[Add Policy]を選択したときに表示されるポップアップ画面上で、[Reset]ボタンをクリックしたあと[OK]ボタンをクリックすると、以下のメッセージが出力され、ログアウトされる場合があります。 Error Session Error Session ID has been expired	XSCF Webに再ログインしてください。ポップアップ画面の[User]テキストボックス内のテキストを消去する場合は、[Reset]ボタンを使用せずに、BackSpaceキーを使用してください。
6757064	「XSCF FMEM write error」のエラーログが記録され、ファームウェアアップデートが失敗する場合があります。	システムの電源をいったん切断 (AC OFF) してから、再投入 (AC ON) してください。その後、再度ファームウェアアップデートを実行してください。
6757614	XSCF Webのネットワーク設定では、setnetwork -rオプションに相当する機能がサポートされていません。また、ホスト名やドメイン名にlocalhostやlocaldomainを指定すると「SessionID has expired」とエラーメッセージが出力されます。	XSCFシェルでsetnetwork -rコマンドを実行してください。
6761674	OBPコマンドのprobe-scsi-allを最初に行う場合、外部SASポート経由で接続されたデバイスすべてが表示されないことがあります。	probe-scsi-allコマンドを再実行してください。

Solaris OSに関する問題と回避方法

ここでは、Solaris OSに関する問題について説明します。表 4に、使用しているSolaris OSリリースに応じて発生しうる問題を示します。

サポートされているリリースすべてのSolaris OSに関する問題

サポートされているリリースのSolaris OSで発生しうる問題を、表 4に示します。

表 4 サポートされているリリースすべてのSolaris OSに関する問題と回避方法 (1/3)

CR ID	説明	回避方法
6531036	boot netによるインストール後に、エラーメッセージ「network initialization failed」が繰り返し表示されます。	有効な回避方法はありません。このメッセージは無視しても差し支えありません。
6532215	ドメインのブート時にvolfsやdscpサービスの起動が失敗することがあります。	サービスを再起動してください。この問題を事前に回避する場合は、以下のコマンドを実行してください。 # svccfg -s dscp setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svccfg -s volfs setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svcadm refresh dscp # svcadm refresh volfs
6572827	prtdiag -vコマンドでPCIバスのタイプが間違っ て出力されます。PCI-Xリーフデバイスが「PCI」、レガシーPCIデバイスが「UNKN」と表示されます。	有効な回避方法はありません。
6623226	lockstat(1M)やdtrace lockstat providerで、システムパニックが発生することがあります。	Solarisのlockstat(1M)コマンドおよびdtrace lockstat providerを使用しないでください。

表 4 サポートされているリリースすべてのSolaris OSに関する問題と回避方法 (2/3)

CR ID	説明	回避方法
6660168	<p>ドメイン上で<code>ubc.piowbeue-cpu</code>エラーが発生するとSolaris Fault Management <code>cpumem-diagnosis</code>モジュールが失敗し、FMAサービスが停止することがあります。これが発生すると、コンソールログに以下の例のように出力されます。</p> <pre>SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Fri Apr 4 21:41:57 PDT 2008 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: 2020642002, HOSTNAME: <hostname> SOURCE: fmd-self-diagnosis, REV: 1.0 EVENT-ID: 6b2e15d7-aa65-6bcc-bcb1- cb03a7dd77e3 DESC: A Solaris Fault Manager component has experienced an error that required the module to be disabled. Refer to http://sun.com/msg/FMD-8000-2K for more information. AUTO-RESPONSE: The module has been disabled. Events destined for the module will be saved for manual diagnosis. IMPACT: Automated diagnosis and response for subsequent events associated with this module will not occur. REC-ACTION: Use <code>fmdump -v -u <EVENT- ID></code> to locate the module. Use <code>fmadm reset <module></code> to reset the module</pre>	<p><code>fmd</code>サービスが停止した場合は、復旧させるために、ドメイン上で以下のコマンドを実行してください。</p> <pre># svcadm clear fmd</pre> <p>その後、<code>cpumem-diagnosis</code>を再起動します。</p> <pre># fmadm restart cpumem-diagnosis</pre>
6668237	<p>DIMMを交換しても、該当するDIMMの故障がドメインから消去されません。</p>	<p>以下のコマンドを実行してください。</p> <pre># fmadm repair <i>fmri</i> <i>uuid</i> # fmadm rotate</pre>

表 4 サポートされているリリースすべてのSolaris OSに関する問題と回避方法 (3/3)

CR ID	説明	回避方法
6723202	M3000サーバのオンボードSAS/LSIコントローラを使用してハードウェアRAIDを構築するために、raidctlコマンドを使用することはできません。 raidctlコマンドはディスクやコントローラのスレータスを確認したり、システム上にインストールされているPCIホストバスアダプター (HBA) に対して使用することができます。	有効な回避方法はありません。この問題を解決する予定はありません。
6725885	cfgadmコマンドを使用すると、M3000サーバでは存在しないシステムボード (SB1からSB15) が表示されてしまいます。	cfgadmコマンドの出力にある、SB1からSB15は無視してください。
6745410	システムをbootしないようなKadbのオプションは、ブートプログラムで無視されてしまいます。	kadbを使用しないで、kadbを使用してください。

マニュアルの変更予定

ここでは、M3000サーバのマニュアルに関して、出版後にわかった最新のソフトウェアに関する情報を示します。

なお、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバXSCFリファレンスマニュアル』に関する変更内容は、特に断りのないかぎり、`man page`にも適用されます。また、`man page`の情報よりも優先されます。

表 5に、マニュアルの変更予定を示します。

表 5 マニュアルの変更予定

マニュアル	変更対象	変更内容
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバXSCFリファレンスマニュアルおよびXSCF man page	traceroute(8) コマンド	ユーザー権限内の以下の記述は削除されます。 <ul style="list-style-type: none">DSCPアドレスに対して実行する場合 fieldeng オペランド内の記述に、以下の内容が追加されません。 DSCPアドレスを指定した場合はエラーとなります。
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバXSCFユーザーズガイド	setloginlockout(8) showloginlockout(8) コマンド	これらのコマンドは、このXCPリリースでは使用できません。
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバアドミニストレーションガイド	setloginlockout(8) showloginlockout(8) コマンド	これらのコマンドは、このXCPリリースでは使用できません。

